

# 本邦地域銀行の金融競争度と利益率・安定性の関係

江戸川大学 杉山 敏啓

## 1. 地域銀行の収益低下

地域銀行の収益低下が進行し、地域金融サービスの持続可能性を懸念する声が強まっている。政府は未来投資会議 2019 年の実行計画案において、地方の生活インフラの維持の一環として、地域銀行等を対象として独占禁止法の除外を認める特例法によって集中的な業界再編を後押しすると表明した。特例法による地域銀行の再編は金融競争度の緩和につながる可能性が高いが、競争低下は、地域銀行の経営安定性の向上に資するのだろうか。

## 2. 金融競争度の評価

Liu & Wilson(2011)、尾島(2017)などの先行研究に従って地域銀行の価格競争度をラーナー指数・マークアップを年毎に計測すると、日本銀行金融システムレポート 2017 年 4 月号および尾島(2017)が指摘する通り、価格競争化の進行が窺われた。銀行等の店舗数は全体として減少基調であるが、堀江(2015)に従って市区町村内店舗シェアによるハーフィンダール指数 (HHI) を年毎に計測すると、2010 年代には競争低下が殆ど進行していなかったことが窺われた。

## 3. 銀行の利益率と安定性への影響

市場構造成果仮説に従えば、競争低下は金融機関の利益率および安定性を高めると考えられる。2005 年度～2017 年度の地域銀行別パネルデータ分析を行うと、ラーナー指数に見る価格競争低下が進行した場合、地域銀行の利益率指標 ROA と安定性指標 Z スコアを共に向上させる関係性が示唆された。他方、店舗 HHI 逆数に見る競争低下が進行した場合、Z スコアは低下する符号関係であり、地域シェア上昇による与信集中リスク等が、地域銀行の経営健全性を損なう可能性を想起させるものであった。ただし、店舗 HHI 逆数の Z スコアに対する偏回帰係数の頑健性は高いとは言えず、実際には合併事案によって様相が異なる可能性がある。総資産規模拡大は Z スコアを向上させる関係性であり、地域銀行の大規模化によって経営体力が向上する関係性が示唆された。

再編による大規模化は、地域銀行の持続可能性の向上に寄与する一方で、地域シェア上昇を背景として合併新銀行のリスクが高まる可能性には注意が必要であることが、本研究を通じて示唆された。地域銀行は経営体力を高めた上で、例えば地方創生への取り組みの積極化等によって自らの営業地盤である地域経済の活性化を図ることが、地域銀行自身の将来の経営安定性につながると言える。

以 上